

# 令和8年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生第五小学校

校長名 鈴木 輝 公印

## 教育目標

人権尊重の精神を基調とし、生涯を通して主体的に生き社会に貢献する人間の育成と、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を持ち、他者と協力して新たな時代をたくましく生き抜く児童を育成するために、次の目標を設定する。

- ◎よく考え学習する子 (主体的に学び、課題解決に向き合う子:問題解決力)
- 優しく思いやりのある子 (相手の気持ちを考えて行動できる子:人間関係形成力)
- 健康でねばり強い子 (心と体を大切にし、目標に向かい努力できる子:実践力)

## 1 目指す特色ある学校像

自己実現ができるよう、児童理解及び学習の習得状況を基に、資質・能力の三つの柱をバランスよく身に付けさせ、『確かな学力、豊かな心、健やかな体』の調和のとれた児童の育成を目指す。そのためにコミュニティ・スクールを基盤として、一人一人を大切にされた安全で安心な環境をつくり、児童の興味・関心を引き出し、得意なことを伸ばすため、保護者、地域・関係諸機関、教職員が一体となり、地域と共に成長する学校を実現する。

- ① 「確かな学力」
  - 児童、教職員が共に学び合い基礎・基本を習得し、もてる力を最大限に発揮できる学校
- ② 「豊かな心」
  - 児童、教職員一人一人が、人権意識を持ち自分や他者を大切にする学校
- ③ 「健やかな体」
  - 児童、教職員が共に健康で、元気のある学校

## 2 学校経営の目標

### (1) 中期的目標

特別支援教育の視点に重点を置き、安定した学級経営を基盤に、小・中学校の9年間を見通して、誰一人取り残さないきめ細やかな指導を行い、小学校段階の基礎・基本を身に付ける。

- ① 確かな学力
  - ア 各教科等の基礎的・基本的な知識及び技能の定着
  - イ 全教職員の指導力の向上及び特別支援教育に係る知識及び技能の向上並びに主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ② 豊かな心
  - ア 人権を尊重し、人間性豊かで思いやりをもった児童の育成
  - イ 人権教育の理解と道徳教育の充実及び生徒指導力の向上による安全・安心な学校の実現
- ③ 健やかな体
  - ア 体育科を要とした体育的活動の充実による児童の体力の向上 (体力テスト全国平均以上)
  - イ 健康で安全に生活するための生活習慣の育成

### (2) 本年度の目標

- ① 確かな学力
  - ア 各教科等の基礎的・基本的な知識及び技能の習得するための言語能力の育成
  - イ デジタルを活用した学びによる、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な指導の推進
  - ウ 児童が安全・安心に過ごせる、安定した学級経営の実現
  - エ 教職員の「教科等の指導力」及び「特別支援教育の知識」の向上
- ② 豊かな心
  - ア 優しい心でお互いを思いやり、大切にする心の育成
  - イ 道徳科を要とした道徳教育の推進及び人権教育の推進による人権尊重の理念の定着
  - ウ 教員の生徒指導力の向上及び家庭、地域、関係諸機関との連携による規範意識の定着
- ③ 健やかな体
  - ア 自身の健康や体力向上に向けて関心を高め、主体的に運動に取り組む態度の育成
  - イ 望ましい生活習慣の確立及び健全育成のため、組織的な体力向上及び健康教育の充実

### 3 目標達成に向けての課題

- (1) 確かな学力
  - ア 各教科等における、言語能力の向上による基礎的・基本的な知識及び技能の定着
  - イ 児童の発達の段階を理解し、特別支援教育の視点を生かした各教科等、主に外国語・外国語活動のICTの活用を含めた指導力の向上
- (2) 豊かな心
  - ア 規範意識の醸成と他者への思いやりの心、コミュニケーション能力の育成
  - イ いじめの未然防止や新たな不登校を生まないための、支持的風土のある学級づくりの実現
- (3) 健やかな体
  - ア 体力の向上及び望ましい生活習慣の定着
  - イ 体力向上全体計画に基づく、体育的活動の充実及び給食指導や食育に向けた学びの工夫・充実
- (4) 学校経営に関して
  - ア 教職員の指導力の向上及び特別支援教育に係る知識及び技能の習得
  - イ 教員の働き方改革の推進
  - ウ 心に届く体験的な学びの場の充実に向けた、地域と学校の協働活動の推進

### 4 経営の具体策

- (1) 児童理解を基に、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるための授業改善に取り組む。
  - ア 一部教科担任制により授業改善の教材研究の時間を確保し、質の高い授業を実現する。
  - イ デジタルを活用した学びの授業デザインの三つの要素に基づいた授業を推進する。
  - ウ 各教科等において対話や合意を図る等、指導事項と関連付けて言語活動を充実させる。
  - エ 校内研究を軸として、ICTの活用やユニバーサルデザインの視点を生かした指導や教材・教具、教室等の環境を整備し、誰もが分かりやすいホスピタリティの高い授業づくりを行う。
  - オ 「福生市学力・学習状況調査」等の客観的な調査を基にした、授業改善推進プランの活用及びR-PDCAサイクルによる指導と評価の一体化等の授業改善に取り組む。
  - カ 学習の定着状況を把握し、朝学習やミライシード、家庭学習等の充実を図る。
  - キ ふっさっ子スタンダード及びふっさ五スタンダードを指針に学習規律を徹底する。
  - ク 各教科等や行事をカリキュラム・マネジメントにより効果的に推進する。
  - ケ 地域図書館や学校図書館、ボランティア等の活用による読書活動及び朝読書等を推進する。
  - コ A L T等を休み時間や給食の時間等にも活用し、英語に親しませるとともに、グローバル人材の育成の基礎となる外国語科、外国語活動等を充実させる。
- (2) 学校の教育活動全体を通して人権教育を推進し、学級経営において生徒指導の2軸3類4層の構造を踏まえ、発達支持的生徒指導を重点にした指導を行う。
  - ア 人権教育プログラムを最大限活用し、教員及び児童の人権感覚を高める。人権擁護委員を活用した人権の授業を全学級で実施する。
  - イ 家庭や地域と諸機関と連携し、道徳科を要に教育活動全体で道徳教育を推進する。
  - ウ 学級活動において学級会を軸に自治的活動を推進する。児童の主体的な活動、活躍できる場、発表の場等を意図的、計画的にもち、成功体験を多く経験させる。
  - エ 不登校の未然防止のため、相談体制や別室指導等の居場所づくりを推進するとともに、各支援員等の活用による、きめ細やかで一人一人を大切にしたい指導を充実させる。
  - オ いじめの未然防止、早期発見、早期対応のため、日々の記録やアンケート調査の充実を図る。
  - カ 「スタートカリキュラム」「交流活動」を充実し、円滑な適応や居場所づくりを行う。
  - キ 探究的、体験的で心に響く学習を実施し、思いやりや優しさ、感謝の気持ちの醸成を図る。
- (3) 自らの健康に関心をもち、主体的に体力向上に取り組める環境づくりを行う。
  - ア 「福生市立学校の体力向上策（第2次）」や体力テストの東京都統一体力テストデジタル集計システム「ALPHA」を活用し、組織的に体力の向上に取り組む。
  - イ 安全教育の研究成果を生かしたカリキュラム・マネジメントによる指導を充実させる。
  - ウ 体育科の授業を充実させるとともに、体育的活動を日常に取り入れ体力の向上を推進する。
  - エ 歯磨き指導をはじめ、生活習慣や健全育成に係る教育を推進する。
- (4) 研修体系等を整理し、会議を効率的に行えるようにする。
  - ア 指導力向上及び特別支援教育の理解のため、東京都教職員研修センター等の研修へ参加する。
  - イ 残業時間を45時間以内70%以上及び毎週ノー残業デーを実施、年休取得平均15日以上にする。
  - ウ コミュニティ・スクールとして、地域・保護者の声に耳を傾け、学校改善に生かす。

### 5 年度末のチェックポイント

- ① 確かな学力ー「学びに向かう力」の伸長、「子どもは学習を理解できている」への保護者の回答及び「あなたは、勉強していることが分かりますか」への児童の回答の肯定的な評価が90%以上
- ② 豊かな心ー児童理解への取り組みが安心感につながり、「学校は楽しい」の児童、保護者の回答の肯定的評価が90%以上
- ③ 健やかな体ー本校児童の体力調査における項目の平均が全国平均以上を達成
- ④ 学校経営に関してーコミュニティ・スクール委員の学校評価の肯定的意見が、90%以上

